

令和6年度 美術科 第2学年 年間指導計画

学期	月	時数	学習内容	評価規準			ICTの活用
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1学期	4月	1	・オリエンテーション				
	4月 5月 6月	8	・私の植物 (マイブラント) ・ゲルニカの鑑賞	原画と1年時後半からの制作中の作品を見直し、手順(造形・接着→着色→表面コーティング)や完成予想図を再確認する。 ピカソの人生を紐解く。	表面やディテールの質感を大切に粘土を増減し、追加材料接着で成形する。その後、効果的な配色を考え、ニス塗装で仕上げる。 時代背景と意図を分析し、大画面で美感する。	表現の意図や感じたことを文章にし、友達の見聞き、相互理解を図る。ワークシートにまとめ、ノートに保管する。 学んだことをまとめる。	タブレット FCR
	7月	3	・野菜果物の 平面構成	素材である野菜果物の特性と平面構成に必要な技法や種類(対称・律動・繰り返し・階調・対比・動勢・強調・つり合い)を理解する。	画面構成(色と個の形と配置)の試行錯誤を重ね、原画(アイデアスケッチ)を決める。	アイデアスケッチに助言やアドバイスを受け、より良い構成を具体的に考え、実践してみる。	電子黒板
	8月		・ポスター(有志)	テーマに合った伝えたい内容を分かりやすく且つ印象的なデザインを制作しようと努力する。	効果的な視覚伝達デザインをポスターカラーでいねいに表現し、完成させる。	夏季補習教室に参加し、ポスターコンクールに応募する。	タブレット
2学期	9月 10月	8	・野菜果物の 平面構成	的確な構成美の要素を用いて自分の選んだモチーフをより洗練された形に仕上げる。	ポスターカラーと混色ノートを用いて、ていねいに着色する。筆の種類や使い方、水量に注意して細部まで緻密に表現する。	出来上がった作品を鑑賞し、友達の作品の良さを認め、多様性を知る。感想をまとめ、次課題に生かす。	タブレット
	11月	3	・錯視図形	錯視図形の意味と種類、著名なもの名称や錯視絵画の巨匠:マウリッツ・エッシャーの作品を堪能する。	錯視図形の学習から応用や変形をして実際に多義図形を制作する。	友達の作品や文字絵やだまし絵まで範囲を広げ、発想や工夫を鑑賞する。	電子黒板
3学期	12月 1月 2月	10	・銅レリーフ(半立体)	銅レリーフのしくみ(点描)、制作の手順やテーマの選び方、レイアウトを理解する。アイデアスケッチを緻密に描く。	モチーフをカーボン紙で正確に写し、稜線や陰影の部分を意識してニードルで点描する。凹部分の黒と凸部分の銅色の比率にも気をつける。	学習発表会に展示し、友達の作品を鑑賞し、感想をワークシートにまとめ、3年時制作への意識を高める。	電子黒板 書架カメラ
	3月	2	・日本の美術用語 【1】	建築物、絵画、仏像等、日本美術の原点から基礎知識を理解する。	大切な用語や画像には図や模写を取り入れ、制作の目的や当時の人々に思いを馳せる。	自分のノートにまとめ、定期考査に向けて何度も見直す。	電子黒板

評価計画

【各観点ごとの評価方法】

評価資料	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・授業観察 ・ポスター ・資料収集 ・定期考査	・授業観察 ・制作過程(作品) ・完成作品 ・ワークシート(振り返り)	・授業観察 ・ノート ・提出物 ・アイデアスケッチ(原画)